



のびのび若っ子

「あゆみ」

教務主任 青木 一敏

平成元年。小学校2年生の私のあゆみに記載された内容。

【行動のようす】

自分勝手な判断をすることが多く、強く自分の考えを主張するので、友達とのトラブルが絶えません。人の気持ちになって落ち着いて行動できるよう、その都度話してきました。(1学期)

ずいぶん落ち着いてきましたが、悪ふざけから人をからかうのだけは気を付けましょう。いい面を台無しにしてしまいます。(2学期)

今年も、もう10月。前期終業式です。私は今、本学級3年1組の「あゆみ」を記述しています。そこで、ふと思ったのです。「自分自身のあゆみの内容は？」と。

ご存じの方もいらっしゃると思いますが「あゆみ」は公簿ではありません。学校教育法施行規則第二十四条「学校長は、その学校に在学する児童等の指導要録を作成しなければならない」と定められています。つまり、学校は児童の学習評価や行動の様子、出席日数を指導要録という公簿として記録を残しています。では、なぜ公簿でない「あゆみ」を作成し、学期の節目に保護者へお渡しするのか。それは、子ども一人ひとりの学習の成果、学校生活の状況等を保護者へ連絡し、保護者が子どもの学校生活の状況を知るためです。そして、子ども本人への励ましと、保護者の協力を求めることをねらいとしているのです。

自分のあゆみの内容がどうしても気になった私は、母を訪ねました。母は奥の部屋から黄土色に変色し、ほんのりカビの匂いの香る用紙を大量に出してきました。それは、小学校1年生から高校三年間の通知表とマラソン大会や遠泳など各種の賞状でした。さっそく持ち帰り、家族みんなで見る展開となりました。すると、冒頭に記載した文章が家族みんなの目に飛び込んできたのです。「パパよく先生やっているね」長男。「人のこと言えないね」長女。深刻そうに見つめる次女。涙目で笑いをこらえる妻を見て笑っている次男。爆笑のひとつ時を生み出す結果となりました。そして、あゆみを見ながらこう思ったのです。

「両親は、この内容のどこで私を励まし、次学期への意欲をもたせることに成功したのだろうか」と。

学校だよりの執筆にあたり「あゆみ」を選んだのには、この後、私自身が改めて考えたことが多くあったからです。母が20年以上経っても、通知表を保管していること。私の成長期、母に「他者へ思いやり」という言葉をよく掛けられたこと。大人になっても、自己主張のしかたとよりよい判断には難しさを感じる。こんな自分でも、たくさんの素敵な学級の子もたちと、職員に出会って、15年間仕事を続けさせてもらっていること。今は、職務として「あゆみ」を記述する立場となりました。児童の成長につながるよう精一杯記述したいと思います。

さて、保護者の皆様「あゆみ」は、どのように活用できそうですか？また、自分の「あゆみ」一度開いてみませんか？素敵なひとつ時に出会えるかもしれませんよ！

最後に…あゆみ裏面の連絡欄に書かれた担任宛の母の記述

「学習では、勉強しなかったのがそのままです。親に時間的余裕がなかった為、見てあげられなかったことが一因でもあると反省しています。行動面については、相手の身になって考えるよう教えたい。」

若葉台小学校学校教育目標

『自他共に大切に作る心を育みます』『意欲的な学びの芽を育みます』